

点検結果報告書（令和５年度実績版）（案） 県民会議委員 意見照会結果

資料１－２

No	ページ	修正箇所	修正内容	修正理由	対応(案)	委員
1	1-6	県民フォーラムにおける県民意見	森が豊かになると海も豊になる（第５０回）→シカ狩り枯木伐採にお金を投入して欲しい。（人件費）（第５０回）	事業モニター結果と近い内容だと感じたので、こちらの修正案を提案します。	提案のとおり修正する	乙黒
2	3-1	計画数量の項番の①, ②	【計画数量（第４期５年間）】 （１） 水源林の基盤整備：箇所数 80箇所 （２） 中高標高域の自然林：面積 47ha （３） 高標高域の人工林：面積 70ha	事業内容と合わせた、対象が分かるように記載する	提案のとおり修正する	乙黒
3	11-1	【活動】 普及・啓発 一般県民や子供たちへの普及・啓発	一般を削除。	一般県民の、一般という表記は不要	提案のとおり修正する	乙黒
4	11-3	県民フォーラム開催状況	フォーラムの実施区分も記載する。	より具体的な施策の内容を知らせることが できるシンポジウム形式と、広く県民と 接して施策やその活動を知ってもらうこと を目的にしたみずもりカフェとでは、アン ケートの結果の傾向が異なっており、その 活動を評価するためにはフォーラムの内容 を区分したうえで記載することが必要。	提案のとおり修正する	上田
5	0-8	高標高域の人工林の土壤保全対では・・・69%	～70%	P0－9の一覧では70.0%となっています。	提案のとおり修正する	宮下
6	0-9	進捗状況一覧で、進捗率の（B/A） のBは令和4年度決算のBか、計（＝ B）のBかわかりづらい。	進捗率に記載のBを＝Bとする。		提案のとおり修正する	宮下
7	1-6 4-3 10-4	事業モニター結果	令和4年度に実施されたものであるため掲載しない。	既に令和4年度版に掲載済み	施策調査専門委員会で議論	宮下
8	7-1	下から6行目で「依然として」	「令和4年度までは依然として」	今も継続して・・・確認されているととれます。令和5年度は環境基準以下という目標を達成したことが分かるようにするため	提案のとおり修正する	宮下
9	10-9	土壤侵食高の「高」はどのような意味でしょうか		浸食の深さが高いのか、あるいは侵食の量が高いのかが分からない	提案のとおり修正する	宮下
10	10-9	図の凡例		見づらい	提案のとおり修正する	宮下
11	7-6	地下水の現状の『水位』の欄	欄外に、「変動が±〇〇cm 以内のものを問題なしとした」などの数値があるとわかりやすいと思う	「問題がない」と判断した理由が必要	提案のとおり修正する	岡田
12	資料編 全般	（１） 関連事業 で関連する事業名が羅列されているが、事業名だけでなく事業番号も記したらいいのでは。	（１） 関連事業 1番事業：水源の森林づくり、4番事業：間伐材の搬出促進、6番事業：地域水源林整備事業 など	資料編を見た際に、それが本編のどこに対応するのか知りたい場合もある。資料編主体に読む場合、わかりにくく必要と感じた。	提案のとおり修正する	岡田
13	資料編 4P	「・天然更新による再生状況については、・・・低木林になると予想され、ササ型林床では・・・草地になると予想された」	予想される根拠となるグラフまたは数値データがほしい		施策調査専門委員会で議論	岡田
14	7-1	「秦野市は依然としてテトラクロロエチレンによる地下水汚染が確認されている」	令和4年で、グラフ記載の3地点で、初めて基準を低下したとする後述の記載内容と矛盾する。 「もしかすると、3地点以外のエリアでは地下水汚染が確認されているのかも？」などと、混乱するので、整理してほしい		施策調査専門委員会で議論	岡田

No	ページ	修正箇所	修正内容	修正理由	対応(案)	委員
15	資料編 4P	「結果から明瞭となった一方、ここ8年間は」	「結果から明瞭となった。一方、ここ8年間は」		提案のとおり修正する	岡田
16	資料編 5P	「主なシカ生息地での目視調査であり、継続して捕獲を続けている箇所ではシカの減少傾向は確認されているが、目標密度に達しない箇所や増加傾向の箇所もある。」	後半の『目標密度に達しない箇所や増加傾向の箇所』とは、どこなのか もう少し説明が必要と思う。	前半と後半が相反する内容で混乱するので、整理してほしい。 想像ですが、「多くの場所で減少傾向なのだが、一部増加傾向もある」ということなのではないでしょうか？	加筆修正を行う	岡田
17	資料編 6P	溪畔林整備事業による初・中期の整備効果	初・中期 の意味が不明	溪畔林整備事業を実施終了後、長期にわたる整備効果 の意味でしょうか？ または 溪畔林整備事業（初期・中期、後期）での初期中期の事業段階 からの一定期間後の整備効果でしょうか？ 初・中期 の意味を明確にしてほしいです。	加筆修正を行う	岡田
18	資料編 13P	「今後は、依然として汚染が・・・移設を検討する」	重要な内容と思います。本編へ移すべきではないでしょうか。		現時点では計画止まりとなっていることから、修正については施策調査専門委員会で議論	岡田
19	資料編 13P	座間市で有機フッ素化合物の基準超過があったとの内容	本編総括にも、反映したほうがよいのではないかと。		現段階では環境基準で定められたものではないため、資料編としたもの。 施策調査専門委員会で議論	岡田
20	資料15P	秦野市のテトラエチレン濃度の変化のグラフ		☐ 地点56－sと59と25の地点にある地下水浄化装置の処理前の水で測定しており、県税での事業効果ではない ☐ このグラフの地点56－sと59の数値が意味するものについて説明が必要 ☐ 事業所実施の土壌ガス吸引と県税実施の地下水浄化装置と関係・地下水の流れ・調査地点の位置関係などについて説明が必要	施策調査専門委員会で議論	岡田
21	7-3	「秦野市で環境基準を超過していたテトラエチレン濃度が、・・・、一部箇所ではまだ基準を超過しているものの。・・・」		☐ 一部箇所とはどこなのではないでしょうか？ ☐ 別ページで指摘した、7－1頁総括の上から5行目の、「秦野市は依然としてテトラクロロエチレンによる地下水汚染が確認されているが・・・」の記述文の疑義と合わせて、整理が必要と思う	施策調査専門委員会で議論	岡田
22	6-1	本編6－1頁の総括にある、水質測定をした『7箇所』について。	本編で、「これまでの整備総数とそのうち令和5年度は7箇所について工事後の水質を測定し、工事前と比較した」という内容を追記してはどうか	今年の水質調査の実施が7箇所だということを、資料の表のリストをカウントすることでようやく理解できた。もう少し、表リストと容易に結び付けられるようにするのがよいと感じた	提案のとおり修正する	岡田
23	資料9P	「・工事後の水質調査は43箇所で行った」	「・施策開始以降これまでに、実施した工事後の水質調査は計43箇所となった」		提案のとおり修正する	岡田
24	3-7	水源保全上重要な丹沢大山について、シカの採食圧や登山者の踏圧による土壌流出にともなう植生の衰退防止を目的として、	水源保全上重要な丹沢大山について、シカの採食圧や年間46万人以上の登山者の踏圧による土壌流出にともなう植生の衰退防止を目的として、	多数の登山者が歩くので登山道が凹み、そこが浸食されて土壌が流出するイメージが具体的な人数を加えた方が伝わりやすい。	令和5年度は年間約50万人であるためその旨を追記する。	太幡